

## 方今の女子問題

文學博士 元良勇次郎

▲人口を開けば直に我國は目下過渡の時期にあり新舊思想は雜然として混在し、其調和と整頓は尙前途遠き者なりなど云ふ。けれど是は日本ばかりが然様ではなくて西洋諸國でも矢張然様なので、何處も同じ新舊思想の衝突は免れぬので、即ち西洋では諸科學の進歩や諸種の機械の發明の爲に、人生の生活に種々の變化が起り、爲めに風俗習慣を左右すると云ふ次第である。故に過渡時代と云ふことは獨り我國ばかりではなくて世界各國皆然らざるなしと云ふ譯である。殊に米國の如きは新開國にして風俗習慣の固定せるもの少く新説行はれ易き國なれば、爲めに種々なる異説や突飛な新流行を生み、以て世界變遷の動機となること多き

二

様に思はる。米國に於ける女子問題の如きは其一例である、即ち女子大學の如きは處々に設けられ、或は經濟の豊かなるに於て或は學術に於て各其名を恣にするものがある。余が見たるヒラデルヒアの近傍ブレーメンの女子大學の如きは宏壯なる石造の建物有し、生徒は一人にて自習室、寢室等を各別に所持し、食堂の如きは實に華麗を極めて居る。斯の如く女子教育の隆盛に連れて婦人の中にも博士、學士等の學位あるものも出で、社會上の自由も權力も頗る發達したるを見る。従つて辯護士、醫師、説教師の如き職業に従事する婦人も決して尠なからず、遂にエンヂニーヤをして我米國婦人の侵さざる職業は唯國務大臣と大統領のみと叫ばしむるに至つた次第である。

實に米國の女子問題は今や其極端迄自由を得たと

云ふことが出来る。近來此傾向に對して不平を唱へる人が彼國人中にも少くないのは尤もな次第と思ふ。

▲歐洲に於る女子問題は米國の様に自由でない。其中でも歐大陸諸國と英島國とは亦多少違ふ點がありませす。一体英國民は保守的傾向を有し其思想も沈着の方で妄りに流行に逐はれたり、容易く人に動かさるゝ方でないけれども然も之を大陸諸國に比すると云ふと餘程進歩して居ませす。一般に云へば英國の婦人の様子即ち風俗、習慣若しくは教育と云ふものは先づ中等で偏せず、走らずと云ふ可きものでありませう。極端なる男女同權論者もなく突飛な自由發展を試みるものもなく、能く婦女子の本分を守つて中正の行ひを守つて行く様であります。去つて獨逸に行つて見ると大分劣つて

見えます。例へば婦人を尊敬することなどは元と獨逸人種の義俠心から起つたのだと聞いて居ませす。教育の普及せざる爲めか英人などに比べると餘程劣つて見えます。そして此頃喧ましく云はれて居る女子問題は何であるかと思つて見ると米國などでは三十年も前に論議されたものを今頻りと論議し其れに關する著書などもぼつ／＼出て來ると云ふ仕未です。獨逸に於ける禁酒問題なども其一つで今盛に論議されて居ませす。

▲夫れから是は國々に因つて多少違ひますが一般に一つの弊害と見る可きは奢侈の流行であります。是は實際に歐米を觀察し來るときは驚くばかりに其甚だしきを認らるゝのです。殊に婦人の奢侈に走れることは今は一般に認められて居る所であります。従つて今日では中等以上の生活をする

男子が一軒の家を構へて獨立すると云ふことは實に容易でないのです。獨逸などは之を英米に比べると余程低いものですが、夫れでも中々大したもので逆も普通のものには六ヶ敷いことです。我國人の考で見たら何で其様に金が要るだらうと不審がるかも知れないが、併し彼國の様子から云へば無理がないのです。即ち一般に洋人は人と交際し人の集まりに出ると云ふことを好む爲めに従つて衣服裝飾を競ふこととなり、其極金銀玉石に多分の金を捨てることゝなるのであります。勿論衣服裝飾は人格の表現で或度迄は必ず必要のものであります。併し其競争となると是は止め度なく募るものです。是は或程度に制限する必要がありませう。即ち交際もよし美的精神も必要であるが併し其れが募つてバリチーとなると止めなければ

なりませせん。之を我國の今日に考へ合はせたらば大に憂ふべき所ではありませんか。無論今日の我國には尙未だ歐米諸國の如き甚だしき様子は見えませんが其傾向は多少ある様に思ひますから戒めなければなりません。

四

▲凡そ物事は利害兩方面を有するもので其惡なる點を上ぐるときは可なり悪く云ふことの出来るものであります。殊に新聞に傳ふ所の如きは其を見て直に事實の真相を思ふと大なる誤りでありませ。何故とならば新聞なるものは一種の山彦の如く夫れから夫れへと反響するものですから、其報導の始めは兎に角、其終りが實際の事實とは大なる相違を生ずることは當り前の事で、恰も伊太利の或家の如く、小さき實際の人聲も其響くのを聞けば大なるものとなると同じ道理であります。故

に新聞紙の報する所は大に注意して聞く必要が  
 あります。例へば今日の新聞紙には毎日悪人の行爲  
 を報導しないものはない位ですから、之を眞面目  
 に正直に考へたらば如何にも世の中は澆季になつ  
 た様に思はれますが、併し是は悪なる方面のみを  
 見るからで決して正しき觀察、斷定とは云へませ  
 ん。彼學生風紀問題なども其一つです。成る程今  
 日の學生中には間々全く惰落して居るのもありま  
 すが、併し學生の大部分がそをと申す譯には參り  
 ません。是も一種の山彦で針小が棒大となつて響  
 くのだらうと思ひます。此間も某新聞記者に成る  
 可く書かぬ方針を取るか若しくは書くにしても之  
 を重要視しない様に書くこと云ふことが必要ではな  
 いかと云つて遣つた位です。兎に角學生の墮落云  
 々は其實よりも其聲の方が大きい様に思ひます。

尤も私とても今日の學生は之を昔日に比べると費  
 用の點に於て大に贅澤の度を進め其氣風も稍文弱  
 に流れる様になつて來たと云ふことは之を認める  
 のである。昔の學生は衣は肝に至り袖腕に至るで  
 其實なども木綿に限られたものが今日は絹糸入り  
 の着物を着て居ると云ふ風で元氣なども之に應じ  
 て違ふ様でありますが併し一概に悉くが墮落した  
 とは云へません、或は昔の學生が酒を飲み妓樓に  
 出入することを堂々と友人の前に誇ると云ふ風で  
 あつたのから比べると然のみけなしたものでもな  
 いと思ひます。

▲之に反して婦人境遇などの方が餘程昔よりも變  
 化して居る様に見えます。即ち昔より婦人の三從  
 とて子としては親に従ひ嫁しては夫に従ひ老いて  
 は子に従ふ可しと教へられ、絶体的に服従を強い

られたるものであるが、維新以來女子教育勃興して婦權の進歩著るしく自由の範圍も廣まりて亦昔日の如き窮屈がない様になりました。故に男學生の氣風の沈みたるに反し女學生の元氣漸次活潑の度を増したるは事實である。従つて婦女子の体格も一般に良好となつた様であるが又是と共に男女同權論、女子尊崇論なども出て來たのである。

▲そこで今日の婦人の問題は如何にして此新思想と昔の絶体的服従説とを調和す可きかにあることとなつた。學校時代では社界は大に婦人を優遇し可なりの自由を與へる爲めに相當に自由な發展が出來たものを、嫁して夫の家に入つて見れば舅姑は依然たる天保的頭腦で絶体三従説を唱ふると云ふ有様で、之を調和するに大なる困難を感じ彼是と煩悶すると云ふことになつて居る様で或は煩悶

の結果、自殺を企てるものなどもある様です。是に至つて如何に之を處置す可きか一應人生觀を決定するの要があるでせう。併し吾々の考へて見ると此調和は何も六ヶ敷いことではない様に思ふ。成程昔の絶体服従は如何にも壓制であり無法であるが併し之と反對で自ら進んで服従することにしたならば何も不平を云ふ所はあるまいと思ふ。何故と云ふに一体服従と云ふことが果して今日の世界の中に悪いのであるかと考へて見ると今俄に然様とは極められない即ち僅か四十年前迄は大に必要であつた服従と云ふものが一朝にして不必要となる筈はない、道徳は斯様に速に變化す可きものではない、將來とても決して容易く道徳の轉倒すると云ふことはないのである。且又昔とても外面に見ゆる程女を壓制したものでなくて却つて存外女の權

力があつたものである。唯昔は理も非もなく服従さしたものを今後は理非を分明にして服従を要求し尙一步を進めては自ら進んで服従せんとするの覺悟を必要とする次第である。

▲縮じて男子が進取的に社會の上に立ちて活動すると共に女子は是に共同し従屬して自ら其性に従ひ其本分を守りて能く自ら進みて服従内助の効を遂ぐ可きものである。今後も徳孤ならず必ず隣ありとか陰徳あれば陽報ありなど云ふて居る通り現在では女が壓服されて居る様でも何處かで得る所があるので決して全然女子の損ではないのです。然るに若し之を思はずして現在男子の上には立ち男子と競争し男子と權を同ふし様など考へたら今後は何處かで非常な損害を受ける處がなければなりません。此頃女子問題の勃興に連れて種々

の雜念に取りまかれて方向に迷ふものもある様ですが、要するに女子が自分自からの性能を悟り其本分を守つて行つたならば將來望多く此國家の發展に連れて益其幸福を受け得らるゝ様になるだらうと思ひます。

是は博士が本月十七日女子高等師範學校内なる如蘭會席上にての演説の主要なり。博士の校閱を経たるに非ざれば文責記者にあり。



- ▲鳴天下俱樂部 突飛な事の多い米國では今度標願の様な珍無類な俱樂部が組織されて現に四十三人の會員を有する由、而して同俱樂部に入らんとするものは左の資格なる可からずと云ふ。
- 一 毎朝夫人の許迄朝食を運ぶもの
  - 二 女中不在の時は自ら食事を調理し且つフォーク等は夫人の手を煩はさずして掃除するもの
  - 三 夫人外出の時は留守番となり小供の世話をするもの